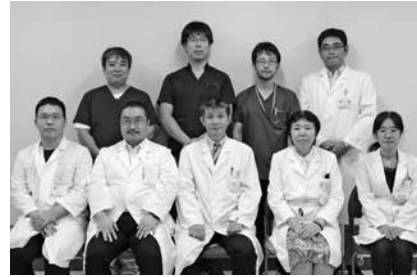


血液内科

■診療科長 下田 和哉

■研修実施担当者 日高 智徳



教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会、日本血液学会、日本癌治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会

診療科の概要

血液疾患、腫瘍を中心に診療します。血液疾患や腫瘍では、外来化学療法から移植までのがん腫に対する様々な治療を、最新のエビデンスをもと

に診療します。また、いずれの領域でも重症感染症や輸液管理、輸血療法などの総合内科医としての全身管理に重点をおいた診療も行っています。

研修症例の特徴

白血病・リンパ腫・骨髄腫などの血液腫瘍や凝固異常、造血障害、骨髄増殖性疾患などの広い分野

の血液疾患を担当し、自己末梢血造血幹細胞移植や同種造血細胞移植の症例も経験できます。

研修目標

【一般目標 (G10)】

- 患者・家族との良好な信頼関係をもち、医療グループの一員としての自覚をもつことができる。
- 病歴、診察、各種検査から得られた患者さんの情報を十分検討しながら、全人的に診ることが出来る視野を備え、エビデンスに基づき適切かつ迅速に診断、治療を実践できる。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 担当症例において系統的に病歴聴取、身体診察を行うとともに、得られた情報をもとに適切な診療計画を立てられる。
- 症例の問題点や治療方針などの要点を把握しつつ適切にプレゼンテーションを行える。
- POS に従った診療録の記載ならびに退院時サマリーの記載、提出を遅滞なく行える。
- 適切に患者・家族とコミュニケーションをとり上級医と相談しながらそれぞれと信頼関係を確立する。
- 注射（筋肉注射、皮下注射、静脈内注射）・採血（静脈、動脈）を安全・清潔に施行できる。
- 輸液療法の基本を理解し、一般的な輸液メニューを組むことができる。
- 血液製剤や血漿分画製剤による効果と副作用を理解し、輸血療法を適正に実行できる。
- 内視鏡治療の適応、外科手術の適応の判断ができる。
- 臨床検査・画像検査の手順・方法論について理解し、診断結果を説明できる。
- 化学療法製剤・分子標的製剤の有効性・作用機序・有害事象を理解する。
- 化学療法における支持療法の重要性を理解する。
- 骨髄検査や表面マーカー・染色体検査について理解を深める。

研修方略

【指導医および指導体制】

研修医は、卒後4年目以上の医員、および指導教官と共に診療に当たります。凝固異常、造血障害、骨髄増殖性疾患、血液腫瘍の対処、基本的検査値の解釈、心電図・胸腹部単純写真・各種画像検査の読影、輸液の方針、感染症の考え方、抗生

剤の使用法、全身管理の考え方などを、実際の症例を指導医と一緒に担当していく中で経験し学びます。担当症例は、血液カンファレンス、回診で検討します。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

- 診療科カンファレンス：毎週の血液カンファレンスで症例の検討を行います。
- 医局研究会：抄読会、ミニレクチャー、学会発表の予行、研究進捗状況報告（自由参加）。
- 他科との合同カンファレンス：骨髄病理カンファレンス（病理と合同）、HTLV-I ミーティング（皮膚科、病理、腫瘍生化学と合同、1回/月）
- 内科合同カンファレンス、1回/月

【週間スケジュール（各検査への参加は各自自由）】

	午前	午後
月	指導医回診、病棟診療	病棟診療
火	指導医回診、病棟診療	新患紹介、教授回診、抄読会、レクチャー
水	指導医回診、病棟診療	骨髄病理カンファレンス、病棟診療、血液カンファレンス
木	指導医回診、病棟診療	病棟診療
金	指導医回診、病棟診療	病棟診療

研修評価

- オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

指導医・先輩医師からのメッセージ

血液内科は初診から診断、治療まで一貫して行うことができ、さらに腫瘍内科分野の中では数少ない「治癒」を目指せる診療科です。化学療法を行っている患者さんは循環器や呼吸、腎臓、感染症など様々な問題を抱えることが多く、血液分野だけでなく総合内科医としての知識や経験を養うことができることも血液内科の魅力の一つです。

また、血液内科の患者さんは高度の骨髄抑制などにより入院が長期に渡ることが多く、その分一人一人の患者さんにかかる時間や思いは大きくなります。治癒を目指して治療に励む患者さんと向き合う楽しさや、やりがいを感じる充実した研修ができると思います。

「血液内科は難しい」というイメージをもつ方も多いかもしれませんが、決してそのようなことはありません。ぜひ、実際に回ってみて血液内科の魅力を感じてみてください。

